

左京区桃栗坂上ル

左京区といえば、京都大学がある場所。この「左京区シリーズ」は京都大学に通う大学生たちの日々や友情、恋愛を描いている。ところが、今回紹介する左京区シリーズ3作目「左京区桃栗坂上ル」では、主人公の璃子（りこ）が幼稚園児の頃から物語は始まる。

父親の転勤で引っ越しの多かった璃子の一家は、璃子が小学校に入る前に奈良へと引っ越してきた。そこで同い年の果菜（かみな）と3つ年の離れた果菜の兄（あに）に出会う。もしかして今作の舞台は奈良なのか？ という勝手な心配（ちなみに奈良市には左京という地名がある）をよそに、璃子と果菜は仲良くおままごとに興じ、実もたまに一緒に遊ぶ日々が過ぎていく。しかし璃子が小学校に入ってしばらくして再び父親の転勤が決まり、果菜や実と再会を約束して璃子は奈良を離れた。

高校生になって、璃子は関西に戻ってきて果菜との交流が再開した。その頃（みのる）実は京大に進学しており、学祭を訪れたことをきっかけに璃子は京大を志すようになる。実は家庭教師として勉強を教えることになり、璃子とともに模試の結果に一喜一憂しながら京大の入試を乗り越えていく。澄んだ青空の下で合格を喜び、晴れて璃子の京都での新生活が始まった。

舞台が京都市左京区に戻ってきたことに安心しているうちに、璃子の大学生活は少しずつ進んでいく。百万遍や今出川通などの地名も時折現れ、膨らんだ想像がより現実感を増したものになるだろう。左京区シリーズの前の作品に出てきた人物も再登場し、前作も合わせて読めばさらに楽しめるはずだ。ぜひ左京区で始まる春に自分を重ねあわせ、時に対比させながら読んでほしい一作だ。



左京区桃栗坂上ル

瀧羽麻子著 小学館

1650円（税込）